

2024年7月7日 聖霊降臨後第七主日礼拝説教

「弱さのうちにある強さ」(Ⅱコリント12章2～10節)

○Ⅱコリント12章2～8節について

「自分自身については、弱さ以外には誇るつもりはありません。」(5節)

使徒パウロは、信仰により神の憐れみを受け、「**第三の天に引き上げられ**」(2節)、御国の有様を見る程だったが、思い上がることなく、「わたしは、自らの弱さを誇る」と語った。

「**第三の天**」：第一(空)、第二(宇宙)、第三(天の御国)

問：パウロの弱さとは、どのようなものか？

「思い上がることがないようにと、わたしの身に一つのとげが与えられました。」(7節)

「とげ」：イバラ、先の尖っているもの、苦しみの種

☞パウロには、癒されぬ病があり、絶えず体に痛みを負いながら、救い主イエスの〈みことば〉を伝え続けていた。

「(とげが除かれるよう)わたしは三度主に願いました。」(8節)

「三度」：繰り返し、何度も何度も

今日のみことば：Ⅱコリント12章9節

「すると主は、『わたしの恵みはあなたに十分である。*力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ』と言われました。」

*〈新改訳〉わたしの力は、弱さのうちに完全に現れる

「弱さ」：力がない、病がある、働さ、脆さ

☆パウロは、病という弱さを受け入れ、それを悲しみのまま終わらせず、弱さのうちに現れるキリストの力を求めた。

①弱さを認めるのは、恥ずかしいことではない。

②できない、足りないことを己の力で強いて行わない。

③力なきところに力を与える救い主イエスに依り頼もう。

「だから、キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。」(9節)

※神の子イエスは、あなたの弱さも喜んで受け入れられる。